

瀬戸内海初記録のムレハタタテダイ

境 茉耶¹・木下亮平²・木村祐貴³

Author & Article Info

¹ 近畿大学大学院農学研究科 (奈良市)

2533680011d@nara.kindai.ac.jp

² 泉佐野漁業協同組合 (泉佐野市)³ 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター(岬町)
KimuraY@o-suishi.in.arena.ne.jp (corresponding author)

Received 05 April 2026

Revised 13 April 2026

Accepted 15 April 2026

Published 15 April 2026

DOI 10.34583/ichthy.66.0_30

Maya Sakai, Ryohei Kinoshita and Yuki Kimura. 2026. First record of *Heniochus diphreutes* (Chaetodontidae) from the Seto Inland Sea, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 66: 30–32.

Abstract

A single specimen of *Heniochus diphreutes* Jordan, 1903 was collected from the Seto Inland Sea, Japan, in 2025. In Japanese waters, this species has previously been recorded from Hokkaido, Miyagi Prefecture, the Pacific coast from Chiba Prefecture to the southern coast of Kyushu, the Izu and Ogasawara islands, Yamaguchi and Nagasaki prefectures, and the Koshiki, Osumi, and Ryukyu islands. Thus, the present specimen, described here in detail, represents the first record of *H. diphreutes* from the Seto Inland Sea.

ハタタテダイ属 *Heniochus* Cuvier, 1816 は日本国内からハタタテダイ *H. acuminatus* (Linnaeus, 1758), ミナミハタタテダイ *H. chrysostomus* Cuvier, 1831, ムレハタタテダイ *H. diphreutes* Jordan, 1903, オニハタタテダイ *H. monoceros* Cuvier, 1831, シマハタタテダイ *H. singularius* Smith and Radcliffe, 1911, およびツノハタタテダイ *H. varius* (Cuvier, 1829) の6種が知られ(島田, 2013), このうちムレハタタテダイは、北海道、宮城県、千葉県から九州南岸にかけての太平洋沿岸、伊豆・小笠原諸島、山口県、長崎県、甕島列島、大隅諸島、および琉球列島から報告されている(島田, 2013; Motomura, 2023; 根来・宗原, 2024; Koreeda and Motomura, 2025; 鈴木ほか, 2025; 和田ほか, 2025)。

2025年12月29日に大阪湾で操業していた小型底曳網漁船によってムレハタタテダイ1個体が採集された。本標本

は本種の瀬戸内海初記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Pyle and Kosaki (2016) にしたがった。標本の作製と登録は本村 (2009) にしたがった。体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm の精度で行った。標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した。生鮮時の色彩は、固定前に撮影された標本のカラー写真に基づく。本報告で使用した標本は大阪市立自然史博物館 (OMNH) に登録、保管されている。

Heniochus diphreutes Jordan, 1903

ムレハタタテダイ

(Fig. 1)

標本 OMNH-P 55973, 体長 64.1 mm, 大阪府泉南郡岬町沖, 水深 42 m, 小型底曳網 (石げた網), 2025 年 12 月 29 日, 木下亮平。

記載 背鰭鰭条数 XII, 23; 臀鰭鰭条数 III, 17; 胸鰭軟条数 16; 腹鰭鰭条数 I, 5; 側線有孔鱗数 54; 側線上方横列鱗数 10; 側線下方横列鱗数 24。標準体長に対する各部位の百分率 (% SL): 体高 77.5; 体幅 15.8; 尾柄高 11.0; 背鰭基底長 77.1; 臀鰭基底長 34.4; 背鰭前長 52.3; 臀鰭前長 77.3; 頭長 34.8; 眼径 12.1; 両眼間隔 11.8; 吻長 8.9; 腹鰭棘長 22.9; 第1腹鰭軟条長 39.3; 第1背鰭棘長 3.2; 第2背鰭棘長 5.7; 第3背鰭棘長 11.1; 第4背鰭棘長 187.2; 第5背鰭棘長 23.8; 背鰭最後棘長 16.8; 背鰭最後軟条長 7.9; 第1臀鰭棘長 17.0; 第2臀鰭棘長 16.2; 第3臀鰭棘長 23.6; 臀鰭最後軟条長 26.8; 胸鰭長 31.7; 尾鰭長 30.3。

体は側扁し、体高が長い。体背縁は吻端から背鰭第4棘にかけて著しく上昇する。口は小さく端位、吻は突出する。眼は円形、眼径は両眼間隔とほぼ同等。鼻孔は2対。前鼻孔、後鼻孔は近接し、眼の前縁前方に位置する。前鰓蓋骨の下縁後部は鋸歯状。両顎前部の歯列は2列。側線は完全であり、鰓孔上端より発し、背鰭の棘条部後部下まで



Fig. 1. Fresh specimen of *Heniochus diphreutes* (OMNH-P 55973, 64.1 mm SL) from the Seto Inland Sea.

上方に湾曲した緩やかな曲線を描き、尾柄にかけて著しく下降し、尾柄で直線になり尾鰭基底まで伸長する。体の全体が櫛鱗で被われる。背鰭と臀鰭軟条部の基底は鱗で被われる。肛門は背鰭第10棘起部直下付近に位置する。胸鰭基底は背鰭第3棘起部直下付近に位置する。腹鰭基底前端は胸鰭基底後端の直下付近に位置する。腹鰭軟条は第1軟条が最長で、畳んだ際に軟条先端が臀鰭第4軟条基底に達する。背鰭起部は鰓孔上端よりやや後方の直上付近に位置する。背鰭は第4棘が最長で、著しく伸長する。臀鰭起部は背鰭の最後棘基底の直下に位置する。臀鰭棘は第2棘が最長。臀鰭軟条は第3軟条が最長で、後方ほど短い。

色彩 生鮮時 (Fig. 1) — 体の地色は白色で、背鰭第5棘直下から尾鰭にかけてはうすく黄色がかかる。胸部はやや黒ずむ。眼を通る黒色横帯は、眼上付近から始まり、眼下付近で消失する。鰓孔上端直上から背鰭第4棘基底にかけて始まる黒色横帯は腹鰭第1棘起部から肛門直前に達し、背鰭第5棘から第8棘基底にかけて始まる黒色横帯は臀鰭第2軟条基底から臀鰭基底直後に達する。背鰭第4棘の鰭膜は白色。胸鰭は黄色みがかかった透明。背鰭は背鰭第1棘から第4棘前方まで黒く、第4棘後方から第5棘下部が白い。背鰭第5棘上部から第11棘下部までの鰭膜は黒く、第11棘から第4軟条までの鰭膜は大部分が白色で黒く緑

取られる。背鰭軟条基底は白を基調とし、第1軟条から第14軟条の下方はうすい黄色。臀鰭第1棘から第2軟条は白く、その鰭膜の外縁はやや黒みがかかる。臀鰭は第2軟条先端から第8軟条基底より後方が黒色。腹鰭は黒色。尾鰭は白色。虹彩はうすい黄色で上部と下部は黒ずむ。

分布 本種は紅海を含むインド洋から日本、中国南シナ海、韓国東岸、オーストラリア西岸・東岸、ケルマディック諸島、ミクロネシア、およびハワイ諸島にかけてのインド・太平洋の暖海域に広く分布している (Roberts, 1992; Myers, 1999; Zuo and Tang, 2011; 島田, 2013; Lee and Kim, 2021)。日本国内においては、北海道函館、宮城県志津川湾、千葉県館山から九州南岸にかけての太平洋沿岸、伊豆・小笠原諸島、山口県豊浦、長崎県、甕島列島、大隅諸島 (種子島・屋久島・口永良部島)、および琉球列島 (奄美大島・加計呂麻島・沖永良部島・与那国島) から報告されている (島田, 2013; 木村ほか, 2017; Motomura and Harazaki, 2017; Koeda and Akita, 2018; Nakae et al., 2018; 藤原ほか, 2020; Motomura, 2023; 根来・宗原, 2024; Koreeda and Motomura, 2025; 鈴木ほか, 2025; 和田ほか, 2025)。本研究により、新たに瀬戸内海から記録された。

備考 記載標本は、側線が尾鰭基底まで達すること、背鰭第4棘が伸長すること、眼を通る黒色帯が眼の下方までしか達しないことからハタタテダイとムレハタタテダイを除くハタタテダイ属他種から識別される (島田, 2013)。さらに、背鰭棘数が12であること、両顎前部の歯列が2列であること、頭部腹面外郭が膨らむこと、臀鰭の黒色域が最長軟条まで及ぶことが島田 (2013) の示したムレハタタテダイの特徴と一致したため、本種に同定された。

瀬戸内海で出現が確認された魚類を整理した吉郷 (2018) や大阪湾で実施した小型底曳網調査で得られた魚類を整理した木村ほか (2022) でも本種は確認されていない。また、Koeda et al. (2022) は東京大学総合研究博物館動物部門所蔵魚類標本 (ZUMT) をリスト化し、ムレハタタテダイ (ZUMT 20515, 20516, 22042) が和歌山県で確認されたことを報告しているが、採集場所の詳細が示されていない。そのため本標本が本種の瀬戸内海からの確かな記録である。本種は岩礁やサンゴ礁域に生息することが知られているが (島田, 2013)、本標本の採集地点周辺が砂泥底であること (横山・佐野, 2015)、紀伊水道と大阪湾の接続部付近であることを踏まえると、太平洋側から偶発的に大阪湾に出現したと考えるのが妥当であろう。

これまでに瀬戸内海で出現が記録されているハタタテダイ属魚類はハタタテダイのみであった (吉郷, 2018)。しかし、本研究によって新たにムレハタタテダイの出現が確認された。近年、日本では暖水性魚類の温帯沿岸域における出現増加や越冬成功が報告されており、その一因として気候変動に伴う冬季の海水温上昇が指摘されている (山

川ほか, 2020)。瀬戸内海においても海水温は1990年代以降上昇傾向にあり, 特に冬季の水温上昇が顕著であることが報告されている(樽谷, 2007)。これまでに瀬戸内海から本種が報告されていなかったことを鑑みると, 現時点では本種は瀬戸内海で越冬・再生産を行っていないと考えられる。ただし, 今後も冬季の高水温化が継続すれば瀬戸内海での本種の越冬・再生産を促進する可能性がある。瀬戸内海における生態系の変化を把握するためにも, 継続的な生物モニタリング調査を実施することが望まれる。

謝 辞

本研究を行うにあたり, 泉佐野漁業協同組合の木下武仁氏には標本の採集にご尽力を賜った。大阪市立自然史博物館の松井彰子氏には標本収蔵に際して便宜を図っていただいた。Ichthy 編集委員の古橋龍星氏と匿名の査読者には原稿に対して適切なご助言をいただいた。ここに感謝の意を表す。

引用文献

- Daly, R., G. Stevens and C. K. Daly. 2018. Rapid marine biodiversity assessment records 16 new marine fish species for Seychelles, West Indian Ocean. *Marine Biodiversity Records*, 11: 1–7.
- 藤原恭司・上原航知・松岡 翠・Kunto Wibowo・本村浩之. 2020. 琉球列島と奄美群島初記録種を含む沖永良部島初記録の魚類50種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 3: 30–40.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 木村祐貴・鍋島靖信・大美博昭・佐野雅基. 2022. 1990年代および2010年代に大阪湾底びき網モニタリング調査で採集された魚類. *地域自然史と保全*, 44: 61–70.
- Koeda, K., M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2022. Report on the specimens of family Chaetodontidae (Teleostei: Perciformes) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo with comments on distributional shifted in these 100 years, pp. 65–84. In Koeda, K. and R. Ueshima (eds.) *The University Museum, The University of Tokyo, Material Reports No. 128. Catalogue of Fish Collection Deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. Vol. 1. The University Museum, The University of Tokyo, Tokyo.*
- Koeda, K. and Y. Akita. 2018. Illustrated list of additions to the ichthyofauna of Yonaguni-jima Island, the westernmost island of Japan: 37 new specimen-based records from the island. *Ryukyu University Museum, Fujukan. Fauna Ryukyuan*, 41: 1–9.
- Koreeda, R. and H. Motomura. 2025. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of the Koshiki Islands and adjacent waters, Kagoshima, southern Japan, with 353 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 21: 1–119.
- Lee, Y.-J. and J.-K. Kim. 2021. New record of the schooling bannerfish *Heniochus diphreutes* (Perciformes: Chaetodontidae) from Pohang, Korea. *Korean Journal of Fisheries and Aquatic Sciences*, 54: 1017–1022.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- Myers, R.F. 1999. *Micronesian reef fishes. A comprehensive guide to the coral reef fishes of Micronesia. 3rd revised edition.* Coral Graphics, Guam. 192 pp.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Joeng, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Science Museum, Tokyo*, 52: 205–361.
- 根来晃佑・宗原弘幸. 2024. 記録的猛暑の2023年に北海道函館市白尻からSCUBA潜水によって採集された北限記録13種を含む初記録14種の魚類. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 44: 1–25.
- Psomadakis, P. N., H. Thein, B. C. Russell and M. Tun. 2019. Field identification guide to the living marine resources of Myanmar. *FAO Species identification guide for fishery purposes, the Food and Agriculture Organization of the United Nations and Department of Fisheries, Ministry of Agriculture, Livestock and Irrigation Republic of the Union of Myanmar, Rome.* xvii + 694 + 126 pp, 63 pls.
- Pyle, R. L. and R. K. Kosaki. 2016. *Prognathodes basabei*, a new species of butterflyfish (Perciformes, Chaetodontidae) from the Hawaiian Archipelago. *ZooKeys*, 614: 137–152.
- Roberts, C. M., A. R. D. Shepperd and R. F. G. Ormond. 1992. Large-scale variation in assemblage structure of Red Sea butterflyfishes and angel fishes. *Journal of Biogeography*, 19: 239–250.
- 島田和彦. 2013. チョウチョウウオ科, pp. 990–1004, 2022–2025. 中坊徹次(編) *日本産魚類検索 全種の同定. 第3版.* 東海大学出版会, 秦野.
- 鈴木将太・太齋彰浩・阿部拓三. 2025. 南三陸町自然環境活用センターの収蔵標本に基づく宮城県志津川湾の魚類相と近年の動向. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 51: 1–24.
- 樽谷賢治. 2007. 瀬戸内海の変化の30年間の変化 — 水産の環境モニタリング “浅海定線観測調査” のとりまとめ —. *日本ベントス学会誌*, 62: 52–56.
- 和田英敏・棟方航平・手良村知功・前田達郎・松山侑樹・西川士朗・本村浩之. 2025. 御蔵島産魚類目録. *Mikuraensis*, 14: 5–54.
- 山川宇宙・三井翔太・小田泰一朗・森田 優・碧木健人・丸山智朗・田中翔大・斉藤洪成・津田吉晃・瀬能 宏. 2020. 相模湾およびその周辺地域で記録された分布が北上傾向にある魚類7種. *神奈川県自然誌資料*, 41: 71–82.
- 横山 寿・佐野雅基. 2015. 大阪湾, 2013年の底層環境 — 主成分分析による水域区分と既往調査との比較 —. *日本水産学会誌*, 81: 68–80.
- 吉郷英範. 2018. 広島県から記録されている海産魚類目録. *比和科学博物館研究報告*, 59: 127–193.
- Zuo, X.-Y. and W.-Q. Tang. 2011. A new record species, *Heniochus diphreutes*, Chaetodontidae from China. *Zoological Research*, 32: 349–352.